

Fuji Champion Race Series Round 4

86&BRZ Round 3



86&BRZは今回が第3戦、今シーズンも全4戦で戦われるが2戦とも優勝ドライバーが異なり後半戦に入ってもシリーズチャンピオンの行方はまだまだ見えない。朝一番の予選でポールポジションを決めたのは今回が初レースという77 CLUB PANTERA 86 佐藤圭 2'04.743、フロントローにランキングトップの25 KeePerSAMURAI86 鶴飼龍太が2'04.887で並ぶもマシントラブルでグリッドにつけないというアクシデントに見舞われてしまった。決勝では逃げる77佐藤を3番手スタートの54 86Racer's上野号 上野嘉三が追うトップ2台の激しい戦い、ラスト2周で54上野が前に出て僅差でチェッカーを受けた。レース後54上野は「3戦目にして初優勝、竹内さんに嬉しい報告が出来ます！クリーンなバトルが出来て押さえきれてとても楽しかったです」と話し、77佐藤は「後ろのプレッシャーが凄かった、でもとても楽しいバトルが出来て嬉しい」と語った。



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	54 上野 嘉三
2	77 佐藤 圭
3	47 落合 立成
4	37 松井 宏太
5	55 野田 宗男
6	50 林 裕介

Super FJ/FJ1600 Round 4



残り2戦となるこのクラスだが、シリーズの行方は上位陣のポイントが均衡していてまだまだわからない状況。土曜日の予選でポールポジションに奪取したのはS-FJクラス61 Rm-SPORTS制動屋KKS 牧野任佑 1'51.450、フロントローにはランキングトップの41 B-MAX・エンドレス10V 今井龍太が並ぶ。FJ1600クラスはランキングトップの7 WRS SASAO SK02 笹尾徹也が1'58.189でトップタイムを出した。日曜の決勝ではスタート直後の1コーナーで41今井が前に出るがアドバンコーナーで61牧野が再び前へ、その後61牧野は徐々に2位以下を引き離しにかかる。後ろでは3番手争いが熾烈。最終ラップでもファステストを更新した61牧野がそのまま優勝、2位には41今井、3位に71 TeamNaoki☆LePrixsports 10V 平優弥となった。FJ1600もスタート直後は順位の変動があったものの、徐々に7笹尾が引き離してトップチェッカーを受けた。61牧野は「スタート遅れたのはいつも通りです。タイヤも暖まっていないので焦ってはいませんでした。最終ラップは予選並みに頑張りました」7笹尾は「苦節4年、やっとチャンピオンを取れました！」



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	61 牧野 任佑
2	41 今井 龍太
3	71 平 優弥
4	22 赤堀 憲臣
5	51 RAIDEN
6	37 大久保 一成

RESULT リザルト FJ1600

Rank No.	Name
1	7 笹尾 徹也
2	38 原田 健
3	5 宮下 啓



GAZOO Racing 86/BRZ Race 2014 Round 8



北海道から九州まで転戦して、全10戦で行われるこのレースはエントリー台数も多く、トップドライバーからアマチュアまでエントリーする人気のカテゴリー。予選も2グループに分けて1組の上位23台と2組の上位22台が決勝Aレースに進出。それ以降がBレース、さらに予選落ちも出るくらいに盛況なレース。2'05.424のタイムでAレースポールポジションを決めたのは962 TR86クロースEXPLODE 織戸学、フロントローに並ぶのは30 ケーエムエスADVAN86R青木孝行。Aレース決勝では1周目に3番手スタートの82 KTMS 86谷口信輝がトップに立ちそのまま押さえて優勝。2位に織戸3位に1 CABANA BS μ 86山野直也となった。レースBでは550ラルグ水戸 BRZ 山口吉明がポール、並ぶのは312埼玉自動車学校μ86松本晴彦。Bレース決勝では1周目に312松本が前に出てトップを明け渡すことなく優勝。2位には759カローラ名古屋86Racing安藤正明、3位には最後尾グリッドから追上げた610 KOTA-R Rn-S BRZ元嶋佑弥となった。

A Race



RESULT リザルト 86/BRZ A

Rank No.	Name
1	82 谷口 信輝
2	962 織戸 学
3	1 山野 直也
4	30 青木 孝行
5	202 蒲生 尚弥
6	10 佐藤 晋也

B Race



RESULT リザルト 86/BRZ B

Rank No.	Name
1	312 松本 晴彦
2	759 安藤 正明
3	610 元嶋 佑弥
4	22 遠藤 力也
5	126 浦川 毅郎
6	758 岩本 佳之

Porsche GT3 Cup Challenge Japan 2014 Round 7&8



もてぎ・富士・岡山と転戦してきたGT3 Cupも残り2戦4レースはここ富士で行われる。第7・8戦となる今回、予選でポールポジションのタイムを出したのはCup- I クラス11 KRN SARAYAMA997 フクジロウ 1'46.002。フロントローに並ぶのは84 CREF MOTORSPORT Masa TAGA、3番手には12 雷神997GT3Cup Aquira Stanleyとなった。Cup- II トップは68 Kremer997GT3Cup 宮本正光 1'50.033。第7戦決勝はレース前半は激しいトップ争いが続くも終盤では引き離し11 フクジロウが優勝。2位には23 Kremer997GT3Cup 滝澤智幸が入った。Cup- II は68宮本が優勝。続いて行われた第8戦は第7戦中のベストタイムでグリッドが決まり、ポールは84 Masa TAGA、フロントローに並ぶのは12 Aquira Stanley、11フクジロウは3番手。Cup- II クラスは5 DSP GT3 Cup 上代昇がトップからのスタート。決勝ではやはりこの上位3台が激しいトップ争いを繰り広げ、10周のレースをコンマ差で制したのは12 Aquira Stanley、2位に84Masa TAGA、3位に11フクジロウ。Cup- II も最後まで接戦の末5上代が68宮本をコンマ差で抑えて優勝した。

Rd.7



RESULT リザルト Category 1

Rank No.	Name
1	11 フクジロウ
2	23 滝澤 智幸
3	12 Aquira Stanley
4	77 MUSASHI
5	44 GYOUZA ADACHI
6	22 Masaya KOYAMA

RESULT リザルト Category 2

Rank No.	Name
1	68 宮本 正光
2	9 小林 賢二
3	5 上代 昇
4	99 齋藤 真紀雄

Rd.8



RESULT リザルト Category 1

Rank No.	Name
1	12 Aquira Stanley
2	84 Masa TAGA
3	11 フクジロウ
4	23 滝澤 智幸
5	22 Masaya KOYAMA
6	44 GYOUZA ADACHI

RESULT リザルト Category 2

Rank No.	Name
1	5 上代 昇
2	68 宮本 正光
3	9 小林 賢二
4	99 齋藤 真紀雄

F4 West Japan Series Round 5



今回は西日本と東日本両シリーズが組み込まれ、両シリーズにエントリーしているドライバーが数多くいるこのカテゴリーは、まず西日本シリーズ第5戦が土曜日に予選・決勝が行われた。予選トップタイムはCクラス18 SUCCEED F108 平木湧也 1'42.646、Aクラストップは総合7番手で5 マルサンRn-sミストKKZS 植田正幸1'43.960、FCクラスは62 HFDP SRS-FコチラR 福住仁嶺 1'44.446。決勝レースではスタート直後の1コーナーで多少のアクシデントはあったものの、トップの18平木はコンスタントに周回を重ねて徐々に2位以下を引き離しにかかる。FCクラスではクラス5番手からスタートの92 美人<V フィールドFTRS 坪井翔が2番手までジャンプアップを見せたが62 福住が逃げ切った。Aクラスは5 植田がトップの座を渡すことなくそのままチェッカーを受けた。FCクラス優勝の62 福住は「嬉しいですよ。明日も頑張ります！」Aクラス5 植田は「総合と絡みかけたので少し不本意ですが楽しいレースでした」Cクラス18 平木は「ポルトウウィン嬉しいですが、途中少しミスをしたのでそこが課題です」と話していた。



RESULT リザルト F4 C Class

Rank No.	Name
1	18 平木 湧也
2	14 山田 真之亮
3	10 加藤 智
4	72 金井 亮忠
5	50 浅原 悠貴
6	25 松井 孝允



RESULT リザルト F4 A Class

Rank No.	Name
1	5 植田 正幸
2	12 吉田 宣弘
3	73 早野 光宣
4	22 吉岡 一成
5	21 相馬 智広
6	35 高橋 忠克



RESULT リザルト F4 FC Class

Rank No.	Name
1	62 福住 仁嶺
2	92 坪井 翔
3	61 坂口 夏月
4	63 大津 弘樹
5	93 小河 諒
6	60 石川 京侍

F4 East Japan Series Round 6



F4東日本シリーズは今回が最終戦、ポールポジションのタイムを出したのはここまで5戦中4勝をあげているCクラス2 美人&TVRacingDRP 三笠雄一 1'42.889。Aクラストップは総合9番手5マルサンRn-sミストKKZS 植田正幸1'44.236、FCクラスは62 HFDP SRS-FコチラR 福住仁嶺 1'44.757と西日本シリーズと同じグリッドとなった。好天に恵まれた決勝では1周終了したところでコーナー各所に止まってしまったマシンの回収のためSCが導入、5周目に再スタートとなり中盤からFCクラスの激しいバトルが繰り広げられた。15週のレースを制したのは総合では2 三笠が逃げ切り、Aクラスは昨日より連勝の5 植田、FCクラスは3番手スタートの63 SRS-Fコチラレーシング 大津弘樹という結果となった。2三笠は「シリーズは決まっていたのでリラックスしてスタートしたのですが、すぐにSCが入りリスタート。先ほど他のカテゴリー(86&BRZ)のアクシデントを見ていたので13コーナーでミスしないように注意して走りました」63 大津は「初優勝！ほっとして嬉しい！F4と絡めて60石川君を上手く抜けました。トップに立ってから長く感じた」と話していた。



RESULT リザルト F4 C Class

Rank No.	Name
1	2 三笠 雄一
2	14 山田 真之亮
3	25 松井 孝允
4	10 加藤 智
5	71 嶋田 誠
6	18 平木 湧也



RESULT リザルト F4 A Class

Rank No.	Name
1	5 植田 正幸
2	11 鶴田 和弥
3	12 吉田 宣弘
4	22 吉岡 一成
5	21 相馬 智広



RESULT リザルト F4 FC Class

Rank No.	Name
1	63 大津 弘樹
2	60 石川 京侍
3	92 坪井 翔
4	62 福住 仁嶺
5	90 根本 悠生
6	61 坂口 夏月

Inter Proto Series Round 3 Review

Inter Proto Series
Round 3

土日ともドライ路面で行われた今回、まずジェントルクラス予選ではトップタイムが19 Pasarレーシングカー Yuke Taniguchiが1'47.393でレース1のポールポジションを獲得。決勝では前半は4 RSS広島トヨペットIPS AKIRA、後半は95 リジカラIPS 永井宏明との激しいトップ争いを繰り広げながらも19 Yuke Taniguchiがトップチェッカーを受ける。終了後には「大変でした！ダメかと思っていたらチェッカーが出てホッとしました」とコメント。翌日のレース2では、2、3番スタートの4 AKIRAと95永井がスタート直後に1コーナーでアクシデント、その間に19 Yuke Taniguchiが逃げ切り優勝。「マシンセット裏目に出ていたのですが勝ててラッキーなレースでした」と話していた。土曜日に予選、日曜に決勝の2レースが行われたProクラスの予選トップは37 KeePer IPS-01 中山雄一1'45.411、ここまで連勝の4 RSS広島トヨペットIPS 平川亮がフロントローに並ぶ。2レースとも接戦の末、37中山がトップチェッカーを受けた。レース後「今シーズン前半はスーパー耐久にもこのマシンを使っているのですが耐久寄りにセッティングしてきましたが、今回はスプリント用に変えてきたらバランスが良く、タイムも出せました」と話していた。

Gentleman



Race1



RESULT リザルト Race-1

Rank No.	Name
1	19 Yuke Taniguchi
2	95 永井 宏明
3	4 AKIRA
4	37 畠中 修
5	16 渡邊 久和
6	36 森川 誠一
7	3 MOTOR MOUSE



Race2



RESULT リザルト Race-2

Rank No.	Name
1	19 Yuke Taniguchi
2	37 畠中 修
3	3 MOTOR MOUSE
4	16 渡邊 久和
5	36 森川 誠一
6	4 AKIRA

Professional



Race1



RESULT リザルト Race-1

Rank No.	Name
1	37 中山 雄一
2	4 平川 亮
3	3 山野 直也
4	95 佐々木 孝太
5	16 Ronnie QUINTARELLI
6	19 黒澤 琢弥
7	36 里山 勉



Race2



RESULT リザルト Race-2

Rank No.	Name
1	37 中山 雄一
2	4 平川 亮
3	16 Ronnie QUINTARELLI
4	95 佐々木 孝太
5	19 黒澤 琢弥
6	36 里山 勉
7	3 山野 直也